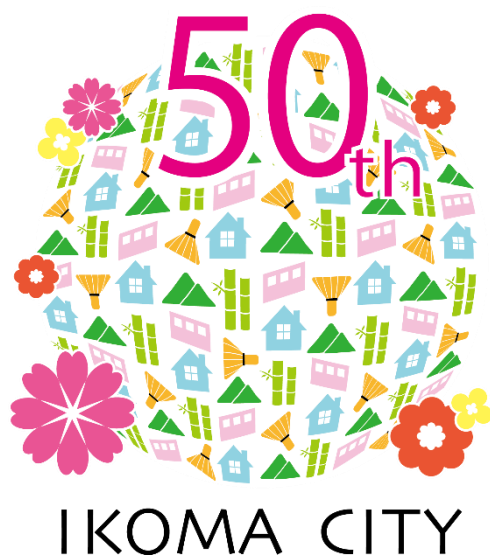


# 生駒市制50周年記念事業実施計画



令和2年10月

生駒市

## 目次

|                       |   |
|-----------------------|---|
| I 市制50周年記念事業の基本的な考え方  | 1 |
| 1 基本理念                | 1 |
| 2 実施方針                | 1 |
| 3 実施期間                | 1 |
| 4 記念ロゴマーク             | 2 |
| II 市制50周年記念事業実施計画     | 3 |
| 1 記念式典                | 3 |
| 2 50年の歩みを振り返る事業       | 3 |
| 3 これからの50年の発展を具体化する事業 | 4 |
| 4 冠事業                 | 4 |
| 5 友好都市                | 5 |
| 6 記念事業を支える事業          | 5 |
| 資料                    | 6 |
| 市の推進体制                | 6 |

# I 市制50周年記念事業の基本的な考え方

## 1 基本理念

本市は、令和3年11月1日に市制施行50周年という大きな節目を迎えます。これまでの50年に感謝するとともに、これからの50年の本市の発展を見据えて、市制50周年記念事業(以下「記念事業」といいます。)を実施します。

市民の皆さんとともに発展してきたこれまでの50年、本市の恵まれた自然環境と、先人たちと培ってきた伝統・文化・風土を継承し、発展させます。さらに、市民・団体・事業者が一体となって記念事業を展開することで、これから先の50年を担う新たなまちづくりに取り組む人や団体(まちのプレイヤー)を掘り起こしながら、「脱ベッドタウン」と「協創」を着実に進め、本市の将来都市像である「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現に向けた新たなまちづくりの出発点とします。

## 2 実施方針

基本理念を踏まえ、次の視点に基づいて記念事業を実施していきます。

- (1) まちづくりに取り組む人や団体に焦点を当てる。
- (2) これまでの50年を振り返り、本市の発展を支えてきた先人たちに改めて感謝するとともに、市民のまちへの愛着や誇りを高める。
- (3) 次の50年を見据えた新たなまちづくり(市民、事業者などとの協創)につなげる。

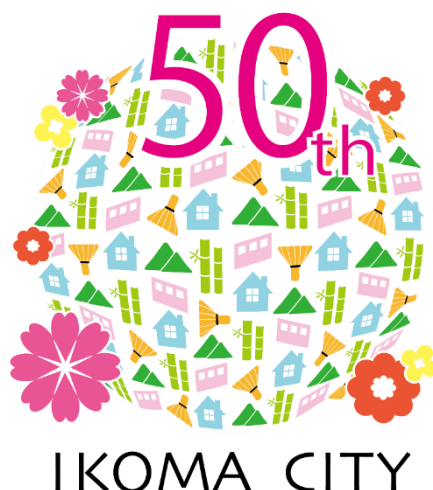
なお、事業実施に当たっては、一過性の事業とせず、継続性のあるものを目指します。

## 3 実施期間

令和2年11月1日～令和4年3月31日

なお、期間については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、変更することがあります。

## 4 記念ロゴマーク



### ■作品の説明

50周年記念ということがすぐに分かるよう、大きな文字と花で華やかに、かつ、親しみやすさを表現しました。全体を構成する柄は、茶釜やケーブルカー、生駒山といった生駒市の名物で作っています。

### ■制作者

中嶋 郁透さん(25歳・京都府亀岡市在住)

全国各地から応募のあった453件のうち、市職員で構成する市制50周年記念事業専門部会の審査により、5作品を選定しました。

その後、市立小学校に通う児童6,785人の投票により、最も得票数の多かった作品を記念ロゴマークとして採用しました。

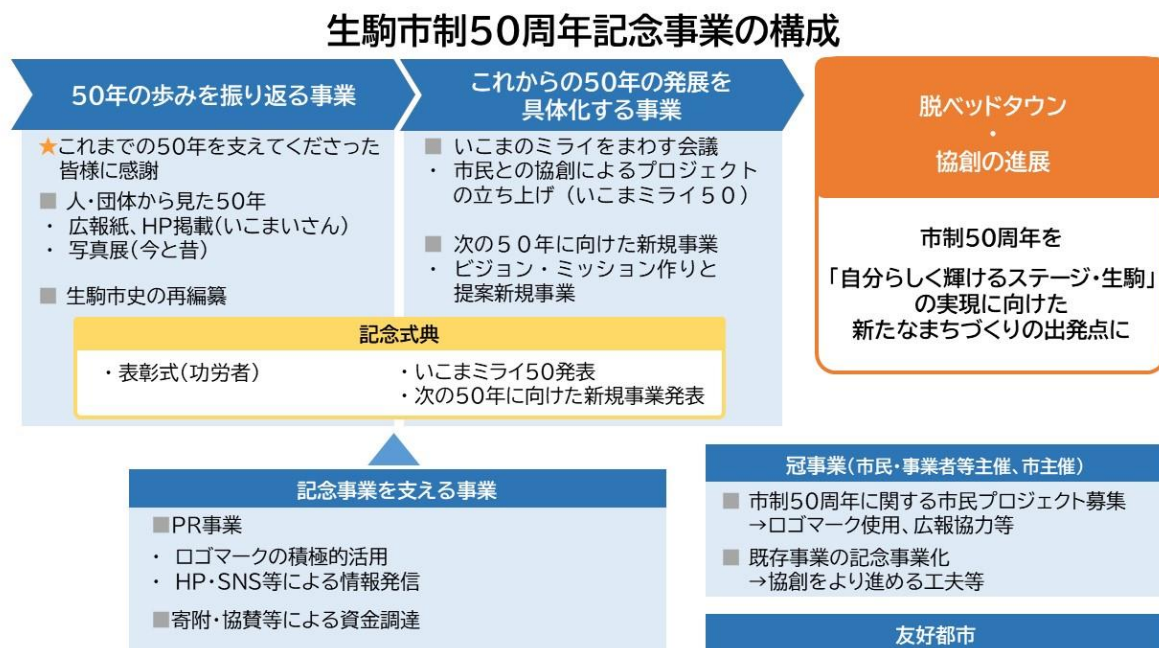
### ■記念ロゴマークの活用

市制50周年という大きな節目の年を市内外に広くPRし、より多くの市民や事業者の皆さまと一体感を持って盛り上げていくためのシンボルとして活用します。

市の印刷物やPRグッズに使用するほか、市以外の団体等が様々な場面で活用できるよう、取扱いについて要綱を定めます。

## II 市制50周年記念事業実施計画

記念事業は、下図のとおり「記念式典」「50年の歩みを振り返る事業」「これからの50年の発展を具体化する事業」「冠事業」「友好都市」「記念事業を支える事業」で構成します。



### 1 記念式典

時 期 令和3年11月予定

会 場 たけまるホール

内 容 市制施行50周年を祝う記念式典を挙行政します。これまでの本市の発展を支えてきた方々の表彰、未来に向けたプロジェクトの発表等を行います。

### 2 50年の歩みを振り返る事業

これまでの50年を振り返り、本市の発展を支えてきた先人たちに改めて感謝するとともに、市民のまちへの愛着や誇りを高めるための事業を実施します。

#### (1) 本市の発展を支えてきてくれた人・団体の紹介

広報いこまちや市公式ホームページにおいて、これまで本市の発展を支えてきた人たちの活動等を紹介し、まとめることで、これからの50年を作っていくための基盤とします。

#### (2) 写真展の開催

これまでの50年の暮らしや記憶を伝える「昔」の写真や、50年後に残したい「今」の日常生活の写真などを募集します。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、WEB等を活用した形での開催も検討します。

### (3) 生駒市史の再編纂

50周年を契機として、これまで蓄積された県・市の調査結果を踏まえ、現在まで本市に貢献してきた研究者やボランティアの参画により、昭和に発刊された「生駒市誌」の再編纂に向けた取組を開始します。

## 3 これからの50年の発展を具体化する事業

### (1) いこまのミライをまわす会議(50人会議)

生駒市のこれまでの50年の発展を礎として、市民がこれからの50年をどう暮らしていくのか。

第6次生駒市総合計画の将来都市像である「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現に向け、様々な属性・世代の市民に「どう学び、どう働き、どう暮らすか」を語り合ってもらい、今後のまちづくりの起点となる活動を生み出す「いこまのミライをまわす会議(50人会議)」を開催します。

なお、本会議から生まれるプロジェクトを、記念式典で発表する予定です。

### (2) 次の50年に向けた新規事業

それぞれの部課において次の50年の発展につながるような新規事業を創出していきます。

## 4 冠事業

### (1) 市民、事業者等主催の記念事業

市民、各種団体、事業者等様々な主体を対象として、市制50周年記念にふさわしい事業提案を募集します。記念事業に認定した事業には、記念ロゴマークの使用承認、広報協力等による応援を行います。

### (2) 市主催冠事業

各部で既に実施している事業、新たに実施する事業等のうち、市民、団体、事業者等との協働により実施するものを記念事業として冠付けを行います。

なお、市主催冠事業の実施に当たっては、より協創を深める等、次の50年につながるような工夫を行い、実施します。

## 5 友好都市

観光、物産、文化等幅広い分野における都市間交流を進めることで、改めてまちへの愛着や誇りを高めるとともに、次の50年に向けた新たな価値の創造につなげることを目的として、新たな友好都市の締結に向けた検討を進めます。

## 6 記念事業を支える事業

### (1) PR事業

記念事業をより効果的なものとするため、市内外に向けて積極的なPRを行います。

#### ア HP、SNS等による情報発信

市公式ホームページやSNS等、様々な媒体を活用し、市制50周年を迎えることを広く周知するとともに、記念事業に関する情報の発信を行います。

また、広報いこまちにおいて、本市の発展を支えてきた人・団体の紹介を始め、記念事業などを紹介する特集記事を連載します。

#### イ 記念ロゴマークの積極的活用

記念ロゴマークは、市の印刷物やPRグッズに使用するほか、市以外の団体等が様々な場面で活用できるよう、取扱いについて要綱を定めます。

### (2) 寄附、協賛等による資金調達

市制50周年には、できる限り多くの市民に関わっていただきたいと考えています。

市民、事業者等主催の記念事業には参画することはできないが、寄附という形で協力できる・協力したいという方に対して、記念事業への参加の一つの形として、広く寄附、協賛等を募集します。

また、ふるさと納税の用途に「生駒市誕生50年を祝おうコース」を加え、市外の方からの寄附も広く募集します。

## 資料

### 市の推進体制

記念事業の円滑かつ効果的な推進を図るため、市の推進体制を次のとおりとします。

#### (1) 行政経営会議

各々が連携し、全庁一体となって記念事業を推進するため、(2)の市制50周年記念事業専門部会での検討の報告を受けるとともに、基本方針、実施計画等に関する調整・決定を行います。

#### (2) 市制50周年記念事業専門部会(プロジェクトチーム)

各部の課長補佐級以下の職員で構成し、記念事業の具体的な検討を行います。

### 市制50周年記念事業専門部会員

(敬称略)

| 所属名        | 所属・氏名    |        |           |        |
|------------|----------|--------|-----------|--------|
|            | 所属課名     | 氏名     | 所属課名      | 氏名     |
| 市長公室・議会事務局 | 企画政策課    | 藤川 幸史  | 広報広聴課     | 泉 昂佑   |
|            | 議会事務局    | 酒見 昭廣  |           |        |
| 総務部        | 行政経営課    | 後藤 裕子  | 総務課       | 山下 綾子  |
| 地域活力創生部    | 市民活動推進課  | 石田 昌代  | SDGs推進課   | 地頭江 祐希 |
| 市民部        | 市民課      | 竹本 マサ子 | 課税課       | 金澤 友祐  |
| 福祉健康部      | 障がい福祉課   | 大畑 勝士  | 地域包括ケア推進課 | 桐谷 純平  |
| 建設部        | 営繕課      | 高谷 英明  | 土木課       | 室井 良介  |
| 都市整備部      | 建築課      | 井上 雅至  | 都市計画課     | 三木 かほり |
| 上下水道部      | 上下水道部総務課 | 植村 仁美  | 上下水道部工務課  | 徳岡 良将  |
| 教育こども部     | 教育総務課    | 小北 敦志  | こども課      | 奥田 怜奈  |
| 生涯学習部      | 生涯学習課    | 井川 啓一郎 | スポーツ振興課   | 福山 智之  |
|            | 図書館南分館   | 錦 好見   |           |        |
| 消防本部       | 消防本部総務課  | 松井 卓士  | 消防本部予防課   | 中嶋 拓己  |